

平成30年 4月25日現在

機関番号：34310

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2016～2017

課題番号：16H07332

研究課題名(和文)17世紀初期ロンドンの演劇出版文化とその政治性について

研究課題名(英文)The Politics of Publishing Drama in the Early Seventeenth Century London

研究代表者

塚田 雄一 (Tsukada, Yuichi)

同志社大学・文学部・助教

研究者番号：60780294

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、17世紀初期のロンドンで出版・再出版されたエリザベス朝期の劇作品の分析を通じて、当時の演劇出版文化が政治的・宗教的潮流と密接な繋がりをもっていたことを明らかにした。特に、なぜ書籍商たちはジェームズ朝に入って特定のエリザベス朝期の劇作品を出版し始めたかという問いを立て、それに対してこれらの劇作品がジェームズ朝期の市民の政治的・宗教的な関心を満たす要素を備えていたためではないかという先行研究にはなかった議論を展開した。そして、本研究の仕上げとして、シェイクスピアの悲劇を含む劇作品の分析を行い、同時期に執筆・上演された劇作品も、こうした演劇出版文化と強く結びついていたことを提示した。

研究成果の概要(英文)：My two-year research into the activities of London booksellers, such as Nathaniel Butter, John Wright and Thomas Pavier, in the early seventeenth century has shown that these booksellers attempted to make the most of the growing yearning for Elizabethan Protestantism among London citizens, publishing plays which appealed to their nationalistic and anti-Catholic sentiments. I have then situated a dozen Jacobean plays, including Shakespeare's, in this cultural context.

研究分野：イギリス文学・文化

キーワード：演劇 出版文化 ロンドン ジェームズ朝

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、2012年から2015年にかけて、ロンドン大学キングズ・カレッジにて、ジェイムズ治世下に執筆・上演されたシェイクスピアの演劇作品に関する研究を行ったが、その研究のために大英図書館で17世紀初期に市民の間に流通していた膨大な出版物を読み解く過程において、二つのことに気づいた。ジェイムズ朝に入った17世紀初頭、エリザベス朝期に上演された劇が相次いで出版・再出版されたこと、そして、それらの多くが強いプロテスタント感情に彩られ、脅威や迫害に苦しめられる敬虔なヒロインを中心に物語を展開していることである。作者不詳の*The True Chronicle History of King Leir and His Three Daughters* (1605年出版)、*Mucedorus* (1606年出版)、トマス・デッカーとジョン・ウェブスターの共作*Sir Thomas Wyatt* (1607年出版)が典型的な例である。当時の政治的・宗教的言説に繰り返し登場する四つの女性表象の類型の一つとして、迫害を受ける若いヒロイン像があったが、再出版されたエリザベス朝期劇作品に登場するヒロインはまさにこの類型を彷彿させる。同時期に出版され、同様の傾向をもつジェイムズ朝劇作品であるトマス・ヘイウッドの二部作*If You Know Not Me, You Know Nobody* (1605-06)、サミュエル・ロウリーの*When You See Me, You Know Me* (1605)、トマス・デッカーの*The Whore of Babylon* (1606)に関しては、それらが当時の政治的・宗教的言説と強い繋がりをもっていたことが、Judith D. Spikesの“The Jacobean History Play and the Myth of the Elect Nation” (1977)やJulia Gasperの“The Reformation Plays on the Public Stage” (1993)で指摘されてきたが、ジェイムズ朝初期に出版・再出版され、数多くの模倣作も生んだエリザベス朝劇作品に関しては、その可能性は十分に論じられてこなかった。なロンドンの書籍商たち(stationers)が、17世紀初頭に特定のエリザベス朝期の劇作品を掘り出し、集中的に出版し始めた背景には当時の政治的・宗教的潮流があったのではないか。また、当時、執筆・上演されたジェイムズ朝の劇作品も、この演劇出版文化に関する議論をふまえて再検討する必要があるのではないか。これらの問いが本研究の出発点である。

2. 研究の目的

本研究は、17世紀初期のロンドンで出版・再出版されたエリザベス朝期の劇作品およびそれらが生んだ模倣作品の分析を通じて、当時の演劇出版文化が政治的・宗教的な潮流と密接な繋がりをもっていたことを明らかにする。本研究の特色は、演劇出版文化を分析する過程で、これまで十分に注目されてこ

なかった書籍商の役割に焦点を当て、17世紀初期の劇作品の出版が決して脈絡なく行われたわけではなく、そこに出版界の一貫した販売戦略があったという仮説を提示する点にある。また、この演劇出版文化について研究代表者が提示する議論をふまえ、観客の政治的・宗教的関心に誰よりも敏感であったシェイクスピアが同時期に執筆した悲劇作品を含む、ジェイムズ朝期劇作品の分析を行う。

3. 研究の方法

本研究は、三部構成である。

第一部では、Alan B. Farmer, Lesser Zacharyらによる先行研究を検討して、出版市場がどのように機能したかを把握するとともに、*The English Short Title Catalogue*、*Early English Books Online*、*Database of Early English Playbooks*をはじめとした書誌情報データベースを活用して、ジェイムズ朝期(1603~25年)に出版された宗教関連書、詩集、演劇を広く読み、当時の出版物の政治的・宗教的な傾向を描き出した。

第二部では、書籍商たちに焦点を当てた。書籍商に関しては、Marta Straznicky編の*Shakespeare's Stationers: Studies in Cultural Bibliography* (2012)やLukas Erneの*Shakespeare and the Book Trade* (2013)といった先行研究があるが、それらに欠けている点が多くあったため、短期間渡英して、大英図書館で一次資料を調査した。そして、特にナサニエル・バター、ジョン・ライト、トマス・アーチャーといった書籍商たちの活動を分析し、ジェイムズ朝の演劇作品の出版の背景に、プロテスタント主義の再興を希求していた多くの市民にアピールするという出版界の戦略があったという仮説を提示した。

第三部では、プロテスタント主義を讃えたエリザベス朝期の人気作品がジェイムズ朝の初期に積極的に売られたという、第一部と第二部を通して研究代表者が描き出した構図をふまえ、ジェイムズ朝初期に出版・再出版された劇作品、たとえば、*The True Chronicle History of King Leir and His Three Daughters*、*Mucedorus*といった作品を読み解き、それらの作品とプロテスタント主義の再興現象の関係を分析した。そして、本研究の仕上げとして、演劇出版文化とロンドン市民の政治的・宗教的関心についての上記の議論をふまえ、シェイクスピアが同時期に書いた悲劇作品を含む、ジェイムズ朝期劇作品の分析を行った。

4. 研究成果

上記の研究を行った結果、なぜロンドンの書籍商たちは、17世紀初期に特定のエリザベス朝期の劇作品を掘り出し、集中的に出版し始めたのだろうか、という問いに対して、これらの劇作品が、プロテスタント主義の再興を希求する当時の市民に広く読まれていた出版物が兼ね備えていた複数の要素（たとえば、1. 強いプロテスタント主義・反カトリック主義に彩られていること、2. 迫害される敬虔な女王を主人公にしていること）を内包しており、ジェームズ朝期の読者の政治的・宗教的な関心や志向を満たす潜在的な力をもっていたためではないかという先行研究にはなかった議論を展開することができた。また、シェイクスピアの悲劇を含む同時期に執筆されたジェームズ朝劇作品も、こうした演劇出版文化に影響を受けていたことを、各作品分析を通じて提示することができた。本研究を進める過程で執筆した論文は随時査読誌に投稿する予定である（投稿済みの論文もあり）。

<引用文献>

Erne, Lukas. *Shakespeare and the Book Trade*. Cambridge UP, 2013.

Farmer, Alan B., and Zachary Lesser. "What is Print Popularity? A Map of the Elizabethan Book Trade." *The Elizabethan Top Ten: Defining Print Popularity in Early Modern England*, edited by Andy Kesson and Emma Smith, Ashgate, 2013, pp. 19-54.

Gasper, Julia. "The Reformation Plays on the Public Stage." *Theatre and Government under the Early Stuarts*, edited by J. R. Mulryne and Margaret Shewring, Cambridge UP, 1993, pp. 190-216.

Spikes, Judith Doolin. "The Jacobean History Play and the Myth of the Elect Nation." *Renaissance Drama*, vol. 8, 1977, pp. 117-49.

Straznicky, Marta, editor. *Shakespeare's Stationers: Studies in Cultural Bibliography*. U of Pennsylvania P, 2013.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

以下、全て査読論文。

塚田雄一, 「エリザベス表象研究の可能性を探る——初期近代イギリス演劇と批評理論の接点——」, *Shakespeare Journal*, vol. 4, 2018, pp. 24-37.

Yuichi Tsukada, "Antony and Cleopatra and the Politics of Representing Elizabeth I in Jacobean England." *Studies in English Literature, English Number*, vol. 59, 2018, pp. 1-20.

Yuichi Tsukada, "'It makes him, and it mars him': Heroic Masculinity in *Macbeth*." *Studies in English Literature, Compiled Issue of Regional Branches*, vol. 10, 2018, pp. 161-67.

〔学会発表〕(計1件)

塚田雄一, 「*Antony and Cleopatra* と騎士道ロマンス」, 第56回シェイクスピア学会(日本シェイクスピア協会), 近畿大学, 2017年.

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

塚田 雄一 (TSUKADA, Yuichi)

同志社大学・文学部・助教

研究者番号：60780294

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()